

神奈川県下の弥生式土器

神 沢 勇 一

神奈川県下においては、弥生式土器の様相は三浦半島を含めた東京湾沿岸地域と相模湾沿岸地域とでは多分に異なっている。東京湾沿岸地域の土器は南関東文化圏に属し、孤立的、停滞的な性格がよく、弥生時代後期に全国的に波及する櫛目文土器の影響をも受けず、独自の発展をとげる。それに対して相模湾沿岸地域の土器は当初から東海地方との関連を示し、後期には櫛目文の盛行や東海地方西部の土器の流入、影響がみられるなど、きわめて対照的である。このことは、二つの文化圏の存在を意味するものであり、本地方の弥生文化を理解するうえで注意しなければならない。^(注 1)

両地域における弥生文化成立の時期は中期初頭で、弥生時代は中期・後期の2時期に限られ、その間、編年表に示すように、それぞれ6型式の土器が認められる。各型式の内容については既に述べたことがあるので、本稿では土器の推移に重点を置いて説明することにした。^(注 2)

中 期

相模湾沿岸地域における当初の土器は堂山式土器である(図版1-4・5、8-3)。最近、秦野盆地から西志賀Ⅱ式土器の地方化した土器が発見されたが、移入品であって、主体的な存在ではない。堂山式土器に対応する東京湾沿岸地域の土器は、地域的にはやや適切性を欠くが、三カ木式土器と考えられる(図版1-1~3、8-1~2)。なお、須和田式土器をそれに当てると言う見解もある。^(注 3)これらの土器は母体となった縄文式土器の伝統をつよく残し、壺形土器と鉢形土器の分離が明瞭でない。両者の最も大きな相違は煮沸形態としての鉢形土器で、堂山式土器では粗製、三カ木式土器では壺形土器にちかい装飾を加えた半精製とも言うべきもので、本質的な差がある。この相違は中期中葉の土器にも引き継がれている(図版8-5~6)が、相模湾沿岸地域の中里式土器には完形品がないので図示できない。

中期後半になると、壺形土器と鉢形土器は明瞭に分離し、鉢形土器は粗製に統一される。この時期には、後期に一般化する台付き鉢形土器も現われ(図版8-11)、壺形土器の丹彩、器形の分化等もある程度進み、弥生式土器らしい形が整ってくる。相模湾沿岸地域では、以後、壺形土器の胴下半部に器体形成のさいの接合部が稜になって残り、いちぢく形の器形とともに、製作手法において東海地方の土器と一致した特徴をもつ。この種の器形は、東京湾沿岸地域にも、ときおり例がある(図版2-6~7、4-2)。

中期の土器は、縄文式土器を母体に成立してから、弥生式土器としての本格的な形を備えるに至るまでの過程を示すと言えよう。

後 期

中期後半には2地域の土器に比較的近似がみられるが、後期の土器は、それぞれ地域性をつよめながら漸移的な発展をとげ、きわめて対照的なあり方をみせている。器形の分化は、いずれも後期前半の段階で、ほぼ完成すると言ってよく、高坏形土器、無頸壺形土器、ごく大型の壺形土器などが現われる。

相模湾沿岸地域では櫛目文土器の影響により、縄文とともに各種の櫛目文で土器を装飾するようになるが（図版5—6・11・13・17）、東京湾沿岸地域では、いぜんとして縄文の装飾が盛行し、櫛目施文はみられず、顕著な差が存在する（図版4—2・11、7—1～2・4・11～13・20、11—14）。他地域の土器の流入も後期における著るしい特徴である。相模湾沿岸地域では、とくに後期中葉から後半にかけて、伊勢湾沿岸地方の土器または模倣品、さらに何等かの影響がみられる土器が目立った存在を示し（図版6—1・8・9・16）、その様相は隣接する東海地方東部とも異なっており、海路による直接的な伝播が考えられる。このような土器は東京湾沿岸地域にも、まれに発見される（図版6—11～13）。一方、東京湾沿岸地域には、多摩丘陵ぞいに北関東地方西部を中心とする樽式土器の系統の土器の分布が及び（図版7—5～7）、また北関東地方東部の二軒屋式土器などの影響を受けたらしい文様も、一部にみられる（図版4—1）。しかし、相模湾沿岸地域の場合と比較すれば、その影響ははるかに少ない。

後期前半から後半までの各型式は、漸移的な変遷をしながら、器形、文様が簡素化し、後期後半には斉一化の傾向をみせてくるが、2地域の土器の対立的な様相は、次の土師器にまで続いている。

注

- (1) 神沢勇一「相模湾沿岸地域における弥生式土器の様相について」神奈川県立博物館研究報告（人文）1巻1号、1968年、神奈川県立博物館。
- (2) 神沢勇一「弥生文化の発展と地域性・関東」日本の考古学Ⅲ・弥生時代、1966年、河出書房新社。
- (3) 杉原荘介「南関東地方」弥生式土器集成本編2、日本考古学協会、1968年。

神奈川県下における弥生式土器編年

時 期	地 域	相 模 湾 沿 岸 (南関東西部)	東 京 湾 沿 岸 (南関東東部)
中 期	前 半	堂 山	(三 カ 木)
	中 葉	中 里	須 和 田
	後 半	小 田 原	宮 の 台
後 期	前 半	赤 羽 根	久 ケ 原
	中 葉	千 代	弥 生 町
	後 半	諏 訪 の 前	前 野 町